

(4) 今後の見通し

(単位：百万円)

	当期実績 (2018年3月期)	次期予想 (2019年3月期)	対当期増減額	対当期増減率
売上収益	261,836	277,000	15,164	5.8%
営業利益	60,684	61,500	816	1.3%
税引前当期利益	63,922	65,000	1,078	1.7%
当期利益 (親会社の所有者帰属)	50,284	50,500	216	0.4%

[売上収益]

次期につきましては、薬価改定や後発品使用促進策の影響を受けるものの、「オブジーボ点滴静注」では、一昨年度に効能追加された腎細胞がんおよび頭頸部がん、昨年度に効能追加された胃がん等への使用拡大が見込まれます。また、プリストル・マイヤーズ スクイブ社およびメルク社からの「オブジーボ」に係るロイヤルティ収入も伸長する見込みです。これらに加え、「フォシーガ錠」、「オレンシア皮下注」、「パーサビブ静注透析用」などの主要新製品の売上拡大を見込んでいます。以上のことより、売上収益は当期比152億円（5.8%）増加の2,770億円を予想しています。

[損益]

研究開発費は、持続的成長を実現すべく積極的な投資を行うため、当期比12億円（1.7%）増加の700億円の見込みです。販売費及び一般管理費（研究開発費を除く）は、オブジーボ関連の活動経費の増加などより、当期比9億円（1.4%）増加の690億円の見込みです。

以上のことより、営業利益は当期比8億円（1.3%）増加の615億円、親会社の所有者に帰属する当期利益は当期比2億円（0.4%）増加の505億円と予想しています。

(注) 2019年3月期よりIFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」が適用されます。当基準適用により、従来、繰延収益として一定期間に渡り収益を認識していた技術導出契約による契約一時金について、導出時に一時の収益として認識することになるため、2018年3月末において繰延収益として計上していた金額は、今後、収益認識いたしません。また、従来、売上収益から控除していた一部の項目を売上原価として処理することになります。なお、2018年3月期においても同様の基準で売上収益および営業利益の概算値を算定した場合、連結業績予想の売上収益の増減は2.3%増、営業利益の増減は1.2%増となります。

(5) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

利益配分につきましては、株主の皆様への利益還元を経営の重要政策の一つと位置づけ、安定的な配当の継続を重視しつつ、業績に応じた成果の配分を行っていきたくと考えています。

当期の配当金は、期末配当を1株当たり20円とし、第2四半期末配当25円（創立300周年記念配当5円含む）と合わせて、年間配当を45円とさせていただくことを予定しています。また次期の年間配当については、1株当たり45円を予想しています。

なお、内部留保金の使途につきましては、国内外における新薬の研究開発やバイオベンチャーとの提携、さらには開発リスク補完のための新薬候補化合物の導入など、将来の事業発展のために積極的に活用していきたくと考えています。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国際的なスタンダードに基づく財務情報の開示により比較可能性を向上させ、株主、投資家や取引先など様々なステークホルダーの皆さまの利便性をはかることを目的として、2014年3月期から国際会計基準（IFRS）を適用しております。